

## 国語科学習指導案

指導者 紫竹小学校

教諭 三浦 清孝

1. 日 時 平成23年10月28日（金） 5校時（14:00～14:45）

2. 学年・組 第6学年い組（23名）

3. 単元名 「生活の中の敬語」～伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項～

### 4. 単元目標

- 日常生活での自分の言葉を振り返り、正しい敬語の使い方に慣れることができる。  
 撥 場面に応じて、ふさわしい言葉づかいを選択し、自分の考えを伝えようすることができる。

### 5. 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	・敬語が使われる意味と使い方を確かめ、敬語を使おうとしている。
言語についての知識・理解・技能	・敬語の使い方を確認しながら、例文を適切な表現に直している。 （言葉の特徴やきまりに関する事項）
人間関係形成・社会形成能力（キャリア教育）	・自分の考えを正確に伝えるために、ふさわしい言葉づかいを選択しようとしている。

### 6. 生き方探究教育と単元について

本単元では、敬語が使われる意味と使い方を確かめ、使おうとする態度を育成するために、場に応じた敬語について考えることをねらいとしている。では、なぜ敬語を使うのか。この答えを考えることは、人と人とのつながり方について考えることである。社会の中で生きていくには、他者とのコミュニケーションを円滑に結ぶことがもとめられる。また、その能力を育成することが生き方探究教育においてつきたい力の一つ「人間関係形成・社会形成能力」である。

多様な他者の考え方や立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えるためには、自分の置かれている状況を的確に受け止めて言葉を発しなくてはならない。正確に伝えるためには、丁寧に話すこと、わかりやすく話すことなど敬語の基本となる部分の力が大切になる。また、自分の置かれている状況を的確に受け止めて言葉を選ぶことは、「尊敬語」と「謙譲語」の用法の違いや、使い分けの意味を理解することが大切になる。このことから、本単元と生き方探究教育とのつながりの深い単元であると言える。

授業では、「敬語」の使い方を理解するだけでなく、「場」に応じた使い方を判断し、積極的に敬語を使っていこうとする態度を育てたいと考えた。その工夫として、敬語を使う場面を日常生活や学習活動の中で設定した例示カードを用意し、カードに示された内容を適切に判断し、ふさわしい言葉づかいを選択し、表現させるようにした。また、敬語で話をした時と、そうでない時の印象の違いなどに着目させて、初対面の人と接する時にふさわしい言葉づかいや人間関係を円滑に結ぶための方法として大切なスキルの一つとしてとらえさせるようにした。

一方、国語科の範囲のみで評価するのではなく、人間関係形成・社会形成能力のスキルトレーニングの一環として敬語を使う必要のある場面を全教育活動の中で意図的に設定するなど、知識として終わることなく「能力」の育成を意識した指導計画を立てていきたい。

今回は、指導計画をABCの3案示し、児童の実態に応じて実践ができるようにした。本学級では、B案で指導を展開している。

また、本時の活動の中で「参観されている先生からインタビューを受ける」場面を設定した。指導計画を立てた段階では、参観されている先生にインタビューをするという案であったが、より児童が敬語を使う実際の場面に近づけたい、また、緊張感を持って実習を行うことで成就感や達成感を得られる場面を設定したいと考え、定型句があり準備のできるインタビューではなく、何をどのように言えばいいのか「立場と場」に応じた言葉遣いを迫られる「参観している先生方からインタビューを受ける」とした。

インタビューをされた後は、今度は児童が自分の敬語でのコミュニケーションについてインタビューアの先生にインタビューをするようにした。これは、敬語でのコミュニケーションにチャレンジしたことを評価してもらおう場であると考えている。児童がこれからも敬語でコミュニケーションをはかりたいと意欲を持つようなコメントを発してほしい、つまり、敬語を使ったコミュニケーションを必死になってはかろうとした児童の姿に対して、次につながるコメントを参観された先生方にも考えいただくことで、生き方探究教育の視点を大切にした授業へ参加してほしいと考えている。

教科学習として知識・理解・技能等を評価をして学習が終わるのではなく、そこでつけた力をどのように生活の場面で生かしていくか、能力として発揮させていくかという先を見据えた視点や感覚を授業者と共に参観者も磨いていきたいと考えた授業である。

# 生き方探究・キャリア教育

## 社会的自立・職業的自立

### 基礎的・汎用的能力

#### 人間関係形成・社会形成能力

・キャリア教育において、敬語を適切に使い進んでコミュニケーションを図ることを目標とする意図は、

- 多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができる。
  - 自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画することができる。
- の2点である。国語科の学習で培った力を「基礎的・汎用的な能力」として発揮する場面を設定することが生き方探究・キャリア教育の視点を持った授業である。

#### 基礎的・基本的な知識・技能

・「読み・書き・計算」等の基礎的・基本的な知識・技能を習得することは、社会に出て生活し、仕事をしていくという「社会的自立・職業的自立」の上で極めて重要な要素である。本単元の敬語の学習において必要となる基礎的・基本的な知識・技能及び意欲・態度は、

- 日常生活での自分の言葉を振り返り、正しい敬語の使い方に慣れることができる。
- ・敬語が使われる意味と使い方を確かめ、敬語を使おうとする。
- ・敬語の使い方を確認しながら、例文を適切な表現に直す。

ことである。これらの知識・技能及び意欲・態度を培い、人間関係や学級等の集団を形成する中で発揮されるようにするのが生き方探究・キャリア教育の視点である。

☆生き方探究・キャリア教育の視点は、国語科の敬語の学習の上位目標ではなく、児童がつけた基礎的な知識・技能や意欲態度を社会的自立・職業的自立にどのように結びつけるかを考えることである。

☆本単元では、敬語を使ったコミュニケーションを進んではかろうとする意欲を引き出すことがこれからの児童の生き方につながると考え単元構成を行っている。

## 8. 児童について

5年生からクラス替えなくそのまま進級した学級である。ただし、担任のみが交代している。4月当初は担任が代わったことによりやや不安定になる児童がおり、落ち着いた雰囲気の中で生活を送ることが難しい面が感じられた。特に女子児童の気持ちの揺れが大きく、学級のことや友達のことを考えることができる状態ではなかった。そのような中で4月をスタートした。修学旅行、運動会等の行事や日々の授業を進める中で担任との関係、児童間との関係は落ち着きを取り戻し、さまざまな取り組みを通して6年生としてがんばることができたという自尊感情の高まりと、それぞれの役割をきちんと果たしてきたという自己有用感の高まりの2つの高まりが見られるようになってきた。

しかしながら、自分と親しい仲間以外の人間関係の結び方や、学外での人間関係づくりにおいては、自分の気持ちを伝えることが苦手な児童が多い。公的な場や緊張する場面で進んで人間関係を作り出していこうとする意欲を持つ児童は少ない。そのため、「敬語」について理解をしても、場に応じた適切な言葉を選択して話すという「敬語」の使い方は十分ではない。本單元において、人間関係を形成する能力の一つとして「敬語」を身につけ、どのような場面でもコミュニケーションを図ることができる力を育てていきたいと考えている。

敬語を使うことに関して、本学級の児童は、立場や場面ではなく相手との親密度で使い分けや判断をするものだと考えているようである。典型的な例が、担任の先生には「敬語は使わない」と考え、それが正しいことだと発言したである。「敬語を使わない」理由は、担任を尊敬できないというのではなく、担任とは特別な関係であり、ごく親しいからだということであった。それが児童の敬語を使う尺度であり、初めて会う人や校長先生に敬語を使う理由は、親しくないからだと考えていることがわかった。

敬語の学習を進める中で、本来、敬語を使うかどうかを判断する尺度は相手や自分の立場とどのような状況であるのかという場面であるはずだが、本学級の児童の多くは立場や場面ではなく、目の前の相手や話に出てくる相手への親密度で判断するということがわかった。その上で適切な言葉づかいとして敬語を選択している。このことは、敬語そのものにとらえ方をどのように見ていくかということにもつながる大きな問題だと考えられる。一方、人間関係を円滑に結ぶという視点から見れば、立場も親密度もともに大切な尺度としてとらえることができる。

では、社会的自立と職業的自立という二つの自立を考えたときにはどのように指導をしてきけばよいのか、人間関係形成・社会形成能力を高めるという視点からはどうなのか敬語の学習を進める前に児童の実態と照らして考えなくてはいけないことが多い。

「親しき仲にも礼儀あり」と親密度の判断ではなく、立場と場面で判断のものであると指導すれば授業としては成り立つが、敬語そのものにとらえ方が違っていると考えると、簡単に解決するものではない。親密度が敬語を使う判断基準であっても、丁寧語と尊敬語を使う場面は理解することができるが、親密でない相手に謙譲語を使う感覚は理解しにくいのではないかと感じている。謙譲語は「立場」の上下が基本であるので特に難しい。児童が日常生活やこれまでの経験の中で、敬語を使う基準が親密度であると判断しているために、敬語は難しいと考えているのであれば、敬語の学習についてもう一度考えるべきであると感じている。

## 9. 単元計画

### A案（全2時間）

時	学習活動	学習活動における 評価規準（評価方法）	生き方探究教育の視点
1	<p>○日常生活を振り返り、言葉遣いについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5年生での敬語の学習を振り返り教科書の例文を参考にしながら、丁寧語・尊敬語・謙譲語の役割を確認する。</li> <li>・教科書に出てくる場面で適切な言葉遣いができているかを話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活場面で使われる敬語の意味と使い方を知り、正しい敬語を使おうとしている。（観察・発言）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・敬語は聞き手や会話の中に出てくる人などに敬意を表すための言葉であることに気付くようにする。</li> <li>・二人組で話し手・聞き手を交替しながら、お互いの言葉遣いを聞き合う。</li> </ul>
2	<p>○例示された文を、適切な敬語の文に言い換える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の敬語が使われている場面の例文を読み、正しい敬語に言い換える。</li> <li>・グループで役割を決め、敬語を使う場面を想定し、正しく敬語を使っているかを確認し合う。</li> <li>・敬語を使う場面を想定し、正しい敬語の使い方に慣れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例文をもとに、相手と場を意識して適切な敬語を使えるようにする。（観察・発言）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・敬語の使い方を確認し、適切な敬語を使って進んでコミュニケーションをとろうとする。</li> </ul>

B案（全3時間）

時	学習活動	学習活動における 評価規準（評価方法）	生き方探究教育の視点
1	<p>○日常生活を振り返り，言葉遣いについて考える。</p> <p>・5年生での敬語の学習を振り返り教科書の例文を参考にしながら，丁寧語・尊敬語・謙譲語の役割を確認する。 （ワークシート1）</p> <p>・教科書に出てくる場面で適切な言葉遣いができているかを話し合う。 （ワークシート1）</p>	<p>・生活場面で使われる敬語の意味と使い方を知り，正しい敬語を使おうとしている。 （観察・発言）</p>	<p>・敬語は聞き手や会話の中に出てくる人などに敬意を表すための言葉であることに気付くようにする。</p> <p>・二人組で話し手・聞き手を交替しながら，お互いの言葉遣いを聞き合う。</p>
2	<p>○生活の中で使う敬語について考える。</p> <p>・自分たちの生活で敬語を使う場面を出し合う。 （ワークシート2）</p> <p>・敬語を使う場面とその効果について考える。 （ワークシート2）</p>	<p>・どのような場面で敬語が使われているのか考えることができる。 （観察・発言）</p>	<p>・敬語を使う場面を想定し，なぜ敬語を使うのかを考えることができる。</p>

3 (本時)	<p>○生活の中での適切な敬語の使い方について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで場面に応じた適切な敬語について考え、発表する。</li> <li>・グループから発表された敬語の使い方について話し合い、適切な敬語の使い方について考える。 (カード1)</li> <li>・敬語のよさを確かめながら敬語を使ったコミュニケーションをとる。 (カード2)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題文をもとに、相手と場を意識して適切な敬語を使えるようにする。 (観察・発言)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・敬語の使い方について考え、適切な敬語を使って進んでコミュニケーションをとろうとする。</li> </ul>
-----------	---	---	---

### C案 (全4時間)

時	学習活動	学習活動における評価規準 (評価方法)	生き方探究教育の視点
1	<p>○生活の中で使う敬語について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの生活で敬語を使う場面を出し合う。</li> <li>・敬語を使う場面とその効果について考え、積極的に敬語を使う意欲を持てるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのような場面で敬語が使われているのか考えることができる。 (観察・発言)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・敬語を使う場面を想定し、なぜ敬語を使うのかを考え、「敬語」ビデオを作ることによって学習への意欲を高めることができる。</li> </ul>

2	<p>○生活の中での適切な敬語の使い方について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで場面に応じた適切な敬語について考え、発表する。</li> <li>・グループから発表された敬語の使い方について話し合い、適切な敬語の使い方を考える。</li> <li>・問題点を修正し、「敬語」ビデオの台本を作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題文をもとに、相手と場を意識して適切な敬語を使えるようにする。 (観察・発言)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・敬語の使い方について考え、適切な敬語を使って進んでコミュニケーションをとろうとする。</li> </ul>
3	<p>○「敬語」ビデオを作成し、適切な敬語を使おうとする意欲を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「敬語」ビデオの台本を読み、役割を決めて練習をする。</li> <li>・適切な敬語の使い方をわかりやすく例示するために、「敬語」ビデオを仮撮影する。</li> <li>・「敬語」ビデオを再生し、伝えたいことについて話し合い、本撮影を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な敬語の使い方をわかりやすく示することができる。 (観察・発言)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役割を分担して、よりわかりやすい「敬語」ビデオを協力して作成しようとする。</li> </ul>



4	<p>○敬語ビデオを視聴し、言葉遣いについて考える。</p> <p>・敬語ビデオの例文と教科書の例文を参考にしながら、5年生での敬語の学習を振り返り、丁寧語・尊敬語・謙譲語の役割を確認する。</p> <p>・「敬語」ビデオの場面や、教科書に出てくる場面で適切な言葉遣いができているかを話し合い、敬語の学習のまとめを行う。</p>	<p>・生活場面で使われる敬語の意味と使い方を知り、正しい敬語を使おうとしている。 (観察・発言)</p>	<p>・敬語は聞き手や会話の中に出てくる人などに敬意を表すための言葉であることに気付くようにする。</p> <p>・二人組で話し手・聞き手を交替しながら、お互いの言葉遣いを聞き合う。</p>
---	--	---	---

#### 10. 本時の目標

- 生活の中での適切な敬語の使い方について考えることができる。

#### 11. 本時における生き方探究教育の視点

- 探 適切な敬語の使い方を考え、進んでコミュニケーションをとろうとすることができる。  
(人間関係形成・社会形成能力)

12. 本時の展開（3 / 3時間）

学習活動	働きかけと予想される 児童の反応	○留意点 ☆生き方探究教 育の視点からの 支援	評価の視点
<p>1. 学習のめあてと流れを確かめる。 ・めあて</p>	<p>○1時間の学習の流れを示す。 ・流れがわかる。</p>	<p>○本時のめあてを確かめることで、学習の課題を明確にもてるようにする。</p>	
<p><b>適切な敬語の使い方について考え、すすんでコミュニケーションを結ぼう</b></p>			
<p>・流れ ①場面選択 ②グループ話し合い ③発表 ④全体話し合い ⑤使い方例示 ⑥実習</p> <p>2. グループで、場面に応じた適切な敬語について考える。  ○場面選択 ○グループ話し合い</p> <p>3. 適切な敬語の使い方を発表する。  ○発表</p> <p>4. 適切な敬語の使い方について話し合う。  ○全体話し合い</p> <p>5. 場面にふさわしい適切な敬語について知る。</p> <p>6. 場面に応じた敬語の実習を行う。</p>	<p>○場面に応じた適切な敬語の使い方について話し合い、発表することができるようにする。 ・この場面には、この敬語がふさわしいよ。 ・こうした方が伝わりやすいと思うよ。</p> <p>○「場面に応じ適切な言葉づかい」であることを視点にして発表を聞く。</p> <p>○「場面に応じ適切な言葉づかい」であることを視点にして敬語について考えるようにする。 ・場面に応じているな。 ・立場が不明確だな。</p> <p>○「謙譲語」「丁寧語」「尊敬語」などの説明をわかりやすく例示する。 ・敬語をつかってみたいな。</p> <p>○参観されている先生方に「インタビュー」を受け、敬語で応対をしよう。 ・今日の授業で学んだことは何ですか。 ・敬語を使って困ったことはないですか。 等、「はい、いいえ」で答えられない質問をする。</p>	<p>○前時で児童から出された敬語を使う生活場面から3つの場面を設定する。 ☆緊張感の高い場面 ☆即応が必要な場面 ☆立場の判断が難しい場面 ☆初対面の場面 ☆中学校を意識した場面 等</p> <p>○敬語を使う良さを意識しながら話し合うようにする。</p> <p>○指導者が解答を考える。</p> <p>○実習の進め方を説明する。 ○ペアで行動し、一人が会話し、もう一人が敬語の使い方の判定をする。最後に相手の先生から、自分の敬語についてコ</p>	<p>生活の中での適切な敬語の使い方について考えることができる。 (話し合い・発表)</p> <p>適切な敬語の使い方について考え、進んでコミュニケーションをとることができる。 (行動・観察)</p>

<p>7. まとめ</p>	<p>○敬語を使ったコミュニケーションについての感想交流をする。          ・敬語を使ったコミュニケーションをこれからも進んでしていきたい。</p>	<p>う。二で作ら          る。ミョ          も。ン          を。ク          を。シ          ト。一          ☆進。ケ          け。る。</p>
---------------	--	---

13. 板書計画

生活の中の敬語

適切な敬語の使い方について考え、すすんでコミュニケーションを結ぼう  
 ここは敬語しかない場面ベスト3

**第三位** 知らない人と電話で話をするとき  
 「はい、どちら様ですか。：父は今ご不在です。お帰りになられたら田中さんにお電話していただくように、お伝えいたします。」

「はい、どちら様ですか。：父は今、不在です。帰りましたら、田中さんにお電話をかけるよう伝えておきます。」

**第二位** 職員室で話をするとき  
 「失礼します。三浦先生にプリントをもらいました。どこにいてはるか、知ってはいりますか？」

「失礼します。三浦先生にプリントをいただきにきました。どこにいてはるか、知ってはいりますか？」  
 ※方言は、敬語表現の一つとして大切です。

**第一位** 部活の先輩に連絡するとき  
 「今日の部活、家の用事で休むし、明日の練習、何時からか、先生に聞いていい。」

「今日の部活、家の用事で休みますので、明日の練習、何時からか、先生に聞いておいてください。」

実習 「インタビューを受けよう」

☆敬語とは：

## 生活の中の敬語

敬語の言葉

敬語は、聞き手や、会話の中に出てくる人などに対して敬意を表すための、ていねいな言葉づかいです。

▼ 次の文で、敬語が使われているところに線を引きましょう。また、それぞれが、ていねいな語・尊敬語・けんじよう語のどれに当たるかも考えてみましょう。

- ・郵便物を、机の上に置いておきます。
- ・校長先生が、そうおっしゃいます。
- ・何時ごろいらっしゃいますか。
- ・展覧会には、もう行かれましたか。
- ・明後日、ご自宅にうかがいます。
- ・機械の操作方法は、私が説明します。
- ・紅茶に砂糖をお入れになりますか。

日常生活の中で、敬語を使うのがふさわしい場面はいろいろあります。ここでは、みなさんが、実際に出会いそうな場面を取り上げています。適切な表現を確かめましょう。

▼ 次のそれぞれの表現は、どのように言いかえるとよいでしょう。

- 【家に来客があったとき】
- ・「いらっしゃい。今、お母さんを呼んでくる。ちよつと待ってください。」
  - ・「あつ。お母さんは、今出かけて。山田さんが来たって、言っておきます。」
- 【電話をかけたとき、受けたとき】
- ・「もしもし。同じクラスの中山だけど、しゅうた君は。」

・「はい。…だれですか。…お父さんは、今、いません。帰ってきたら、山田さんに電話するよう言います。」

【店で店員さんと話すとき】

- ・「カーネーション、三本ください。おばあちゃんにあげるから、リボンを付けてほしいんだけど。」

▼ 次のような場面では、どうでしょう。相手が、家族や友達のような身近な人でなければ、どんな言い方をするのがいいでしょう。

- 【食べ物や飲み物をすすめるとき】
- ・「どうぞ、食べて（飲んで）ください。」
  - ・「クッキーを、もう少しどうですか。」

【もらった物のお礼を言うとき】

- ・「この間は、りんごをくれて、ありがとうございました。おいしく食べました。」

わたしたちが、話したり書いたりする言葉は、単に内容を伝えるだけのものではありません。その人が、相手や話題になっている人物をどう思っているのかという気持ちや、その場をどうとらえているのかという見方も表します。生活の中のちよつとした場面でも、相手と場を意識して、適切な敬語が使えるといいですね。



敬語 郵便物 机 展覧会 自宅 挨拶 私 紅茶 砂糖

269 ページを見よう